

「ここにいるのは  
健保組合のひとだ！」

## 太陽運輸株式会社（市原市）の巻



(市原市)

本社を構える八幡宿は  
宿場町として栄えた土地

今回、伺った太陽運輸株式会社（北村方宏社長）の本社は、市原市の北部、JR内房線八幡宿駅にほど近い場所にあります。

八幡宿は千葉市に隣接するエリアで、古くは江戸時代に房総往還の宿場町として栄え、旅人や商人が行き交つて大きなにぎわいを見せています。江戸時代以降、八幡港からは「五大力船」と呼ばれる大型帆船が江戸へ物資を運び、海運の拠点としても重要な役割を果たしていました。しかし、昭和30年ごろから京葉工業地帯の一角として埋め立て工事が進められ、現在では港は姿を消しています。

また、同地域には、「飯香岡八幡宮」があります。上総国の一国一社の八幡宮として白鳳4年（675年）に創建されたもので、今でも安産・子育ての神として人々の信仰を集めています。



▲太陽運輸(株) 本社

近年の運送業界は、働き方改革から環境対応、テクノロジーの進化まで、現場にも経営にも大きな影響を与え社会変動に適応するため、さまざまなことが求められています。まさに「変革の真っただ中」。

特に大きな変革として挙げられる

のが、ドライバーの残業時間が制限され、物流の輸送力不足が懸念される「物流2024年問題」への対応が本格化していること。さらに、2025年4月に施行された「物流改正法」によって荷主企業にも物流効率化の責任が求められるようになり、物流事業者が任せられた従来の体制から、荷主・物流事業者の協働による改善が重視されるようになつたことです。これらは単なる業界内の変化にとどまらず、「安全・効率・持続可能性」を軸にした新しい物流の形をつくる社会的な動きです。

ほかにも、燃料価格の高騰や自然災害による道路事情の変化など、依然として課題は山積しています。こうした状況下においても、業界全体で知恵を絞り、持続可能な物流の実現に向けて着実に歩みを進めていくことを、心より願つてやみません。

### ライフラインの維持を担うタンクローリー事業を専門に

「ここにちは。トラック健保です！」と訪問すると、北村社長に出迎えられ、応接室で取材をさせていただきました。まずは、同社の社史についてうかがいました。

同社が設立されたのは終戦から10年

余りの昭和33年。日本の道路の多くは未舗装で、都市部でも路盤工事が進行中という状況にあって、川崎製鉄千葉製鉄所（現JFEスチール）で生産される道路路盤材の鉄鋼スラグ碎石を運搬するダンプカーの需要に応えるべく設立されました。やがて、市原臨海地区に三井石油（現ENEOS）が製油所を開設、これに合わせて燃料油配達のためタンクローリー事業を開始しました。



▲同社のタンクローリー

ので、地域の発展とともに事業が拡大していくことが分かります。平成に入ると、公共事業でもある道路工事が一段落し、鉄鋼スラグ碎石の運搬需要が少なくなったため、同社はライフルラインの維持を担うタンクローリー事業を専門とする会社として現在に至っています。

### 会社同士のつながりを重視協力会で不測の事態に備える

同社では、石油販売事業を中心約30社と取引を行っており、ガソリン・灯油・軽油・重油を、関東一円のガソリンスタンドや燃料店、運送会社、バス会社、病院、工場など、「油」を燃料や原料として扱う企業に配送しています。

早くから国民生活に欠かせない燃料の配達を行っている同社ですが、コロナ禍の時期には、人やモノの移動が激減したため、バス会社や運送会社への軽油の配達が大幅に減少し、業績に影響が出たとのこと。環境問題から来る化石燃料の消費量の減少とともに、新型コロナウイルス感染症の拡大のような事象が、多方面に影響を及ぼすものだということが改めて実感されます。市原市は製油所もタンクローリーの会社も多いため、各製油所に入構する会社で協力会があり、横のつながりを大切にして情報共有を行い、不測の事態に備えています。また、同社の車両はカラーリングなしの無印車両で、取引先の多様な要求に対応できるようにしているそうです。

### 社員教育では対面が大切「face to face」で良好な環境に

社員教育については、毎月1回、定期的に会議と講習を行っています。危

険物取扱者免許も、入社してから取得されたとのことで、「経営に関しても苦勞が多かった」と振り返ります。

今後の経営戦略をお聞きすると、油の需要、環境問題などさまざま考える

### 運輸の使命に徹して社会の信頼に応える

やかな社長の気遣いが、働きやすい環境をつくつていることが分かります。

### 運輸の使命に徹して社会の信頼に応える

北村社長は、食品の卸しを扱う業種からこの業界に入られたそうです。そ

### 運輸の使命に徹して社会の信頼に応える

ため、タンクローリー車の免許や危険物取扱者免許も、入社してから取得されたとのことで、「経営に関しても苦勞が多かった」と振り返ります。

### 運輸の使命に徹して社会の信頼に応える

北村社長はじめ太陽運輸の皆さん、ご協力ありがとうございました。



▲太陽運輸(株)のロゴマーク